

# BROADWAY

シアトル ブロード・ウェイ

September 2006



## 今いちばん新しいと言われる"ベルタウン"

このところ、すっかりダウンタウンの人気スポットとして仲間入りしたのがベルタウン。バイク・プレイス・マーケットの北からDenny Wayまで、1st Ave.から4th Ave.の間の区間を指します。この2、3年みるみるうちにお洒落な店やコンドミニウムが建ち並び、その変化は目を見張るばかり。新しいものと古いものが混然一体となった様子が非常に興味深いエリアです。新築のコンドミニウムの横に古い瓦のビルが建ち、しかもその壁面には50年代、60年代に人気だったと思われる広告がペイントでファンキーに描かれています。

日中はいかにもビジネス・ディストリクトに隣接した裏通り、という様相でブティックや美容院を訪れる人がちらほら見受けられると

いった程度ですが、ひとたび夜になると、ベルタウンはまさに「花開き」します。

無数のレストランがまるで水槽のように暗闇にネオンを光らせる中、暗いガラス越しに店中を覗くと、驚くほどたくさんの人々が座っているのに気がつくでしょう。そして、毎夜、違ったカテゴリーのミュージックを聴かせてくれるヴォーク・インターネットカフェ兼クラブのスピークイージー、その他、ベルタウンがベルタウンと呼ばれる前からの大御所クロコダイル・カフェ、ラバ・ラウンジなど、人々が次々にクラブに吸い込まれてゆくのが見られます。

いかにも常連の多そうなカフェで集う人々、ピストロ・レストランなどなど、そう、ベルタウンは大人が遊べる街なのです。

"ブロード・ウェイ"シアトルのファッション、カルチャーがここで生まれる

ブロードウェイはシアトルのダウンタウンからハイウェイ-

5を越え丘を登りつめた南はPikeから北はEast Roy Streetまでの一角、一步踏み込んでみると、シアトルの定番観光コースには見られない、歩く人々そのものが非常に興味深いという楽しさがあります。様々なカルチャーの交錯するその通りを歩くと、ヤッピー、ヒッピー、アーティスト、ゲイ、ストリートファッションや世紀末ファッションに身を包んだ人々の姿が見られます。無数にひしめき合うエスプレッソ・バーは、ざっと数えるだけでも31件。まずは気に入ったカフェを見つけて、じっくり腰を落ち着けてみませんか。

少し前に一世を風？した「グランジ・ミュージック」がシアトルで生まれたことは周知の事実ですが、その「グランジ・ファッション」を広めたのがこのブロードウェイの住人達。日本人の皆さんにとってはひとまず、ブロードウェイに無数にある古着屋が一番興味があるといったところでしょうか。

かのブルース・リーの墓が、このブロードウェイの北にあるボランティアパークの、さらに北の墓地にあります。シアトルをこよなく愛し、またワシントン大学へも通っていたという彼のお墓は、湖を見下ろす高台にひっそりと立っています。そしてもう一人、忘れてならないシアトル出身のジミー・ヘンドリックス。彼の銅像がブロードウェイとPine Streetの角に立っています。

ショッピングはEast HarrisonとEast Republican Streetの間にあるブロードウェイ・マーケットがおすすめ。フロアには出店も出され、エスニックな小物やストリートファッションのアクセサリーと掘り出し物が見つかります。

ブロードウェイはまたエスニック料理のファンにも見逃せません。タイ、ギリシャ、メキシコ、エチオピア、日本料理と、どれにするか迷ってしまいそう。

行き方はダウンタウン3rd Ave.のPike Street以南、どこからでも7番か43番のバスで。